



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年8月10日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 小松 百合弥 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	49,941	1.9	790	△71.1	640	△68.6	△23	—
29年3月期第1四半期	49,014	4.5	2,732	138.5	2,037	23.6	1,059	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 781百万円 (4.7%) 29年3月期第1四半期 746百万円 (407.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	△0.34	—
29年3月期第1四半期	15.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	239,253	111,188	45.7	1,611.90
29年3月期	246,949	111,724	44.5	1,620.10

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 109,360百万円 29年3月期 109,908百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期（予想）	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	212,000	3.1	5,800	△31.1	6,200	△16.3	3,500	△39.3	51.60

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	70,892,060株	29年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	3,046,185株	29年3月期	3,051,562株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	67,841,685株	29年3月期1Q	67,795,187株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、出版から総合メディア企業を目指す㈱KADOKAWAと、ネットとリアル融合を目指すIT企業㈱ダウンゴの創造性を結集し、あらゆるコンテンツの価値を高めるプラットフォームとして、世界に類のない企業体への飛躍を目指しております。

日々新たなサービスが生まれ、競争環境が変化するインターネットサービス市場においては、高度な技術力に裏付けされた独創的なコミュニケーションの場を提供し、多様なユーザーニーズにお応えしております。リアルなイベントとの連携がユニークなカルチャーを創出し、UGC（ユーザー生成コンテンツ）が広がっていく中、出版、映像、ゲーム等の制作で積み上げてきた企画力、編集力等を駆使して魅力あるコンテンツを創造し、あらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるメディアミックス戦略を積極展開しております。

コンテンツのデジタル化が加速する状況下、電子書籍や、アニメを中心とした海外での動画配信は需要が高まっております。高い競争力を持つコンテンツとネットワーク技術を最大限活用しながら、海外拠点での拡販や、日本のコンテンツのリアルな体験を提供するインバウンド関連事業等、新たなビジネスの創造をグローバルに図っております。また、平成29年10月には、サーバ・画質・遅延の問題が解決され、スマートフォンへの対応のほかにも様々な最先端の機能が搭載されたniconicoの新バージョン（く）（読み方：クレッシェンド）を投入し、デジタルネイティブ世代の多様なニーズへの対応を強化する予定です。

既存の出版ビジネスにおいては、書籍を一部単位で高品質かつ低コストにオンデマンド印刷できる製造・物流一体の最新鋭工場（平成32年4月フル稼働予定）の準備が順調に進んでおり、新工場で使用する機材のテスト稼働を開始しております。

当第1四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

Webサービス事業においては、平成29年4月に「ニコニコ超会議2017」を開催しました。動画サービスの競争が激化する中で、会場来場者数は15万4,601人と過去最高を記録、505万9,967人のインターネット視聴をいただき、niconicoの発信するインターネット文化を共有することができました。

ニコニコ動画では、有料の「プレミアム会員」の会員数は当期末に236万人まで減少した一方で、「ニコニコチャンネル」の有料登録者数は61万人に達し、収益を下支えしております。NHN PlayArt㈱との共同プロジェクトによるリアルタイムオンライン対戦ゲーム「#コンパス～戦闘摂理解析システム～」のダウンロード数は、iOS/Android版合わせて200万を突破しました。公益社団法人日本将棋連盟と主催する「叡王戦」はタイトル戦への昇格が決定し、インターネットを通じて伝統文化の普及、発展にも関わっております。

また、音楽配信サービスのダウンゴジェイピーにおいては、ジャニーズ事務所所属アーティストの楽曲の先行配信が人気を集めています。

一方、「プレミアム会員」の会員減による減収や、niconicoの新バージョン（く）の開発費用が減益要因となりました。

以上の結果、売上高は76億8百万円（前年同期比3.9%減）、セグメント損失（営業損失）は72百万円（前年同期は営業利益4億48百万円）となりました。

出版事業においては、紙書籍では、「いのちの車窓から」、「うつヌケ うつトンネルを抜けた人たち」や、シリーズ作品の「けものフレンズBD付オフィシャルガイドブック」、「Fate」等がヒットしましたが、主力のライトノベル、コミックスがやや勢いを欠いたこと、在庫の評価減等により、前年同期比では厳しい業況となりました。

雑誌では、ウェブメディアへの移行等ビジネスモデルの転換を図る中で、大型ムック「別冊カドカワ乃木坂Vol. 4」がヒットしました。

電子書籍・電子雑誌では、総合電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」の増収に加え、他社の電子書籍ストアでのキャンペーン、㈱NTTドコモが運営する雑誌読み放題サービス「dマガジン」からの収益の増加により、好調な業績が続きました。

以上の結果、売上高は270億13百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント利益（営業利益）は10億94百万円（前年同期比49.3%減）となりました。

映像・ゲーム事業においては、映像では「幼女戦記」、「この素晴らしい世界に祝福を！2」の映像パッケージソフトの国内販売が好調だったこと、海外へのライセンス販売ビジネス強化策が「ロクでなし魔術講師と禁忌教典」、「Re:ゼロから始める異世界生活」等の成果につながったこと、映像関連子会社の業績が好調であったことから、実写の劇場公開作品が低調に推移したことによる減益影響を緩和できました。

ゲームでは、「DARK SOULSⅢ」から、本編とダウンロードコンテンツを完全収録したバージョンの販売収入や海外からのロイヤリティ収入が続いているほか、アプリゲーム「戦刻ナイトブラッド」、「天華百剣 -斬-」、「結城友奈は勇者である 花結いのきらめき」が好調でした。

以上の結果、売上高は107億35百万円（前年同期比4.9%増）、セグメント利益（営業利益）は6億42百万円（前年同期比38.9%減）となりました。

その他事業には、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメやniconicoから生まれたコンテンツの販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営収入等が含まれております。今後の成長の柱として期待されるインバウンド関連の事業開発費用や調査費用もその他事業に計上されており、売上高は53億71百万円（前年同期比5.2%減）、セグメント損失（営業損失）は85百万円（前年同期は営業損失39百万円）となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高499億41百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益7億90百万円（前年同期比71.1%減）、経常利益6億40百万円（前年同期比68.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失23百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益10億59百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて76億96百万円減少し、2,392億53百万円となりました。支払手形及び買掛金並びに賞与の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて71億59百万円減少し、1,280億65百万円となりました。支払手形及び買掛金並びに賞与引当金が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて5億36百万円減少し、1,111億88百万円となりました。配当金の支払等により資本剰余金が減少した一方で、保有株式の時価総額増加によりその他有価証券評価差額金が増加しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少等があったものの、仕入債務及び賞与引当金の減少並びに法人税等の支払等により、31億10百万円の支出（前年同期は6億92百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預け入れや有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、23億99百万円の支出（前年同期は6億87百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、18億40百万円の支出（前年同期は87億85百万円の収入）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて74億9百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、837億31百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成29年5月11日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	105,542	99,390
受取手形及び売掛金	40,207	36,525
たな卸資産	16,829	17,373
前払費用	1,532	1,678
繰延税金資産	5,595	5,341
預け金	2,547	2,216
その他	3,364	4,281
貸倒引当金	△737	△767
流動資産合計	174,880	166,039
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,565	15,900
減価償却累計額	△4,637	△4,891
建物及び構築物 (純額)	10,927	11,009
機械及び装置	718	1,559
減価償却累計額	△322	△368
機械及び装置 (純額)	396	1,190
工具、器具及び備品	10,342	10,709
減価償却累計額	△7,267	△7,556
工具、器具及び備品 (純額)	3,074	3,153
土地	20,275	20,275
建設仮勘定	976	119
その他	353	356
減価償却累計額	△204	△218
その他 (純額)	149	137
有形固定資産合計	35,800	35,885
無形固定資産		
ソフトウェア	5,792	5,724
のれん	925	849
その他	1,661	1,597
無形固定資産合計	8,379	8,172
投資その他の資産		
投資有価証券	21,029	22,507
退職給付に係る資産	55	52
差入保証金	3,762	3,904
その他	3,654	3,303
貸倒引当金	△613	△612
投資その他の資産合計	27,889	29,156
固定資産合計	72,068	73,213
資産合計	246,949	239,253

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,862	23,532
短期借入金	481	419
1年内返済予定の長期借入金	2,158	2,159
未払金	6,823	5,430
未払法人税等	1,801	662
前受金	7,538	6,394
預り金	2,617	3,562
賞与引当金	3,262	1,426
ポイント引当金	90	90
返品引当金	7,252	6,700
株式給付引当金	124	206
役員株式給付引当金	286	189
その他	2,858	3,112
流動負債合計	61,159	53,886
固定負債		
長期借入金	64,941	64,526
繰延税金負債	3,977	4,338
退職給付に係る負債	3,331	3,306
その他	1,814	2,006
固定負債合計	74,065	74,178
負債合計	135,224	128,065
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	63,585	62,194
利益剰余金	27,808	27,785
自己株式	△4,889	△4,845
株主資本合計	107,130	105,759
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,561	2,613
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,194	960
退職給付に係る調整累計額	11	16
その他の包括利益累計額合計	2,778	3,601
非支配株主持分	1,816	1,827
純資産合計	111,724	111,188
負債純資産合計	246,949	239,253

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	49,014	49,941
売上原価	34,178	36,462
売上総利益	14,836	13,479
販売費及び一般管理費	12,103	12,688
営業利益	2,732	790
営業外収益		
受取利息	22	21
受取配当金	160	234
持分法による投資利益	196	190
その他	72	64
営業外収益合計	452	510
営業外費用		
支払利息	23	24
為替差損	368	26
寄付金	749	610
その他	6	0
営業外費用合計	1,147	661
経常利益	2,037	640
特別利益		
投資有価証券売却益	6	—
投資有価証券償還益	—	125
特別利益合計	6	125
特別損失		
投資有価証券評価損	—	32
特別損失合計	—	32
税金等調整前四半期純利益	2,043	732
法人税等	975	751
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,068	△18
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,059	△23

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,068	△18
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	360	1,051
繰延ヘッジ損益	△27	—
為替換算調整勘定	△594	△238
退職給付に係る調整額	7	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△66	△18
その他の包括利益合計	△321	800
四半期包括利益	746	781
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	744	799
非支配株主に係る四半期包括利益	2	△18

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,043	732
減価償却費	1,025	1,227
のれん償却額	35	46
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	16	△14
返品引当金の増減額 (△は減少)	△1,124	△546
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,072	△1,835
受取利息及び受取配当金	△183	△255
持分法による投資損益 (△は益)	△196	△190
売上債権の増減額 (△は増加)	7,594	3,649
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△375	△560
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,967	△2,313
前受金の増減額 (△は減少)	△1,689	△1,143
その他	△106	△361
小計	1,999	△1,566
利息及び配当金の受取額	288	338
利息の支払額	△12	△11
法人税等の支払額	△1,583	△1,870
営業活動によるキャッシュ・フロー	692	△3,110
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	2,001	△1,348
有形固定資産の取得による支出	△847	△790
無形固定資産の取得による支出	△589	△582
投資有価証券の売却による収入	92	—
投資有価証券の償還による収入	—	225
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	21	—
その他	7	96
投資活動によるキャッシュ・フロー	687	△2,399
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	156	△47
長期借入れによる収入	10,000	—
長期借入金の返済による支出	△453	△414
非支配株主からの払込みによる収入	420	40
配当金の支払額	△1,378	△1,391
その他	40	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,785	△1,840
現金及び現金同等物に係る換算差額	△538	△59
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9,626	△7,409
現金及び現金同等物の期首残高	52,175	91,140
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	43	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	61,844	83,731

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	7,817	25,611	10,045	5,537	49,012	2	49,014
セグメント間の内部 売上高又は振替高	99	341	184	129	755	△755	—
計	7,917	25,952	10,229	5,667	49,767	△752	49,014
セグメント利益又は 損失 (△)	448	2,157	1,052	△39	3,620	△887	2,732

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△887百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益440百万円、全社費用△1,368百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	7,521	26,621	10,544	5,248	49,935	6	49,941
セグメント間の内部 売上高又は振替高	87	391	191	123	794	△794	—
計	7,608	27,013	10,735	5,371	50,729	△787	49,941
セグメント利益又は 損失 (△)	△72	1,094	642	△85	1,580	△789	790

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△789百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去38百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益446百万円、全社費用△1,274百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。